

横浜港視察ツアー

2022年3月10日(木)

参加者人数(大阪大ゼミ生18名+教員1名)



視察行程

令和4年3月10日(木) 大阪大学赤井教授・ゼミ生 横浜港ご視察

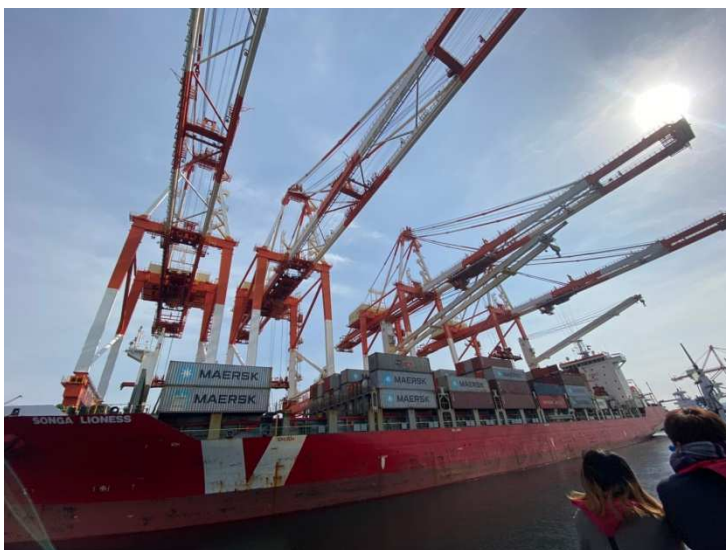
晴天時

- 13:10 横浜駅東口タクシー乗り場 集合
13:15 横浜駅東口タクシー乗り場 発
(マイクロバス移動15分)
13:30 京浜港湾事務所船着き場 発
(たかしまⅡ乗船) (海上視察 100分)
新港ふ頭 → 大さん橋国際客船ターミナル → 山下ふ頭
→ 横浜ベイブリッジ → 本牧ふ頭 → 新本牧ふ頭建設予定地
→ 南本牧はま道路 → 南本牧ふ頭 → 大黒ふ頭
15:10 ぶかり棧橋 着・発
(徒歩10分)
15:20 新港ふ頭客船ターミナル(ハンマーヘッドクレーン) 着
(新港ふ頭客船ターミナル 視察20分)
15:40 新港ふ頭客船ターミナル(ハンマーヘッドクレーン) 発
(徒歩10分)
15:50 横浜海上防災基地(海上保安資料館 横浜館) 着
(海上保安資料館 視察15分)
16:05 横浜海上防災基地(海上保安資料館 横浜館) 発
(徒歩5分)
16:10 赤レンガパーク・赤レンガ倉庫 着
(赤レンガパーク・赤レンガ倉庫 視察30分)
16:40 赤レンガパーク・赤レンガ倉庫 発
(徒歩10分)
16:50 大さん橋国際客船ターミナル 着
(大さん橋国際客船ターミナル 視察20分)
17:10 大さん橋国際客船ターミナル 解散



船上視察の感想(横浜湾岸エリア開発:みなとみらい地区、ベイブリッジ、本牧地区、大黒地区など)

1. コンテナを動かすクレーンをあれほど間近で見たのは初めてで、それが動いているところも初めて見たが、思っていたより動きが速く、クレーンゲームを見ているかのような感覚。近くで見るとかなり大きいコンテナが船に信じられないくらい多く積み上げられており、海上輸送が未だに主力である訳が理解できた。この作業をもとに横浜が発展してきたのだと思うと感慨深かった。



2. コンテナやコンテナ船、クルーズ船をあの距離で海側から見ることはなかなかできない体験だったと思う。より大きなコンテナ船やクルーズ船を受け入れることは、港の発展につながることはあるが、そのためにはクレーンを大きくしたり（クレーンの地下の杭をより強化したり）、岸壁をより強化したりと、様々な取り組みが必要になることを理解した。いつかにつぼん丸に乗って、またベイブリッジの下を通過してみたいと思う。



3. 本牧地区では、船上から右を見ても左を見てもコンテナが積み上がっていて、あれほどの量のコンテナが並んでいる風景を初めて見た。一つ一つをクレーンで持ち上げて、綺麗に積み上げていく様子は壮大だった。神戸に住んでいるので神戸港はよく馴染みがあるが、横浜港の規模は想像以上に大きかった。港の規模が大きい分土地を広く使っていて、コンテナや工業的なものが並んでいる中、横浜の美しい建物の景観が損なわれることなく、綺麗な景色を保っている点もすごいと感じた。



4. 船で回ることによって地図だけではわからない横浜港全体の雰囲気分かりました。貿易額の大きい港だけあって、コンテナの数が大変多く、また、いろんな国のコンテナがありました。より大きい船が入れるようになった分、その船のサイズに合うようなクレーン機械を新しくつくらなければいけないという話を聞きましたが、クレーンをつくる費用に対して、採算がとれるのかどうか疑問に思いました。

5. 海上から港湾都市を見るという経験は初めてで、非常に新鮮で興味深かった。新しい貨物船や客船の受け入れ準備のための港湾開発も盛んであり非常に刺激を受けた。個人的に港の埠頭の雰囲気が大好きで、眺めていると何とも言えない興奮と、静かな落ち着きの両方を感じられる。特に海上から直接眺めることが出来た今回は、コンテナそれぞれが歩んできた道に思いを馳せ、非常に楽しかった。港も含め、町がこれからますます発展していくことを切に願う。

6. 船上から見る港はとても新鮮で、すごく印象に残りました。クレーンを使って、一つのコンテナを積み込む時間が日本一短く、とても効率的であると聞き、船上で動きを見ていると、速さを実感することができました。また、船上で説明していただいた港の工事に関して、一つの工事

を施すのに、全て最初からやらなければいけないことがたくさんあるということが自分のイメージと違って驚きました。

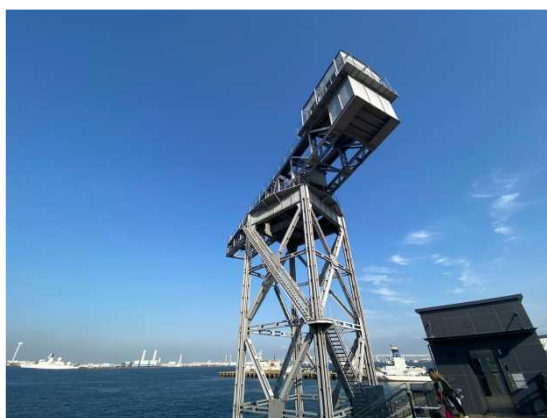
7. ベイブリッジを下からくぐるという機会は中々得られるものではないので、とても貴重な体験ができたと思います。また、日々私たちが購入している外国の商品が、船でこのように運ばれている、また日本からこのように船で輸出しているのかというのが知れて、勉強になりました。横浜港を夜に巡るクルーズには乗ったことがあったのですが、昼の横浜港を一望する機会は初めてのことであったので、大変有益な体験となったと思います。ありがとうございました！
8. 横浜港を訪れたのは今回が初めてだったが、港ながら有名な観光地ともなっているのが神戸港と似ていると感じた。また、昨夏大阪で IR 誘致が行われている夢洲を視察したことから、IR の構想を断念した横浜の IR 用地の行く末が気になった。関東は人口が多いため IR 予定地に従来型の大きな商業施設を建設すれば赤字になることはないのかもしれないが、新たな海外客の観光地となりえた IR を断念することは、クルーズ船の寄港など港全体にとって大きな損害になっただろうと思った。
9. 横浜湾岸の規模の大きさに、非常に感動しました。広いと思うと同時に、港の整備というものの効率性も気になりました。ただ大きくしていくだけではないのだろうと思います。現在開発中のところが、外から見るだけでもわかり、韓国の港に負けぬように国際競争力をつけてほしいと思いました。知識の面では、アンモニアの輸入というのがとても気になりました。肥料や工業用として用いられていることを知り、意外なところからこのようなことを知れて良かったです。物理や力学はよくわかりませんが、港の整備と水上の風力発電の設置等、難しさをさらに勉強しなければと感じました。
10. 船上視察において最も印象に残った光景は、みなとみらい地区です。海と街の共生というテーマで人々がそこに魅力を感じるような工夫が随所に凝らしていることが伺ったお話から読み取れました。私の地元県も含め、同様のテーマで地区開発を行っている地域は数多くありますが、その中でもみなとみらい地区はナンバーワンの成功例だと思います。
11. 横浜港の開発の過程や現状について理解を深めることができました。今回の視察に伺うまで、横浜港はどちらかというと客船が発着するイメージが強かったため、あれほどの貨物がある大きな港であったことに非常に驚きました。また、コンテナを積むクレーンの作業が人の手で行なわれていることも初めて知りました。ベイブリッジの名前は聞いたことがありましたが、実物を下から見たことで、想像していたよりかなり大きく感じました。横浜港の規模は思っていたよりも大きく、日本屈指の港湾であると実感しました。
12. 船上から横浜全体の景色を一望することが出来たのは非常に貴重な経験となりました。特にガントリークレーンを用いたコンテナ積み込みは非常に迫力がありました。世界一の効率性を誇る横浜港の荷役作業を間近で視察出来たことはなかなかない経験でした。ふ頭の再編や、港の脱炭素化、LNG バンカリング戦略など政府が港湾戦略に力を注ぎ、世界競争に対応可能な横浜港を整備していることが視察や資料を通じてよく分かりました。

13. 第一印象としては、開発が進んでいるきれいな街だと感じました。説明に上がってくる名前も聞いたことがある企業ばかりで、横浜のすごさを改めて感じました。また、横浜港はコンテナ貨物取扱個数全国2位、ICT を活用した作業効率化が行われていることを知り、横浜港の日本での重要性を勉強することができました。世界一と言われる横浜港のコンテナ積み上げ作業を生で見ることができたことも、とても貴重な経験でした。
14. 途中参加のため記載なし
15. "日本の物流がどのような仕組みで成り立っているのかを実際目で理解できた。コンテナをクレーンで操縦したり、トラックでコンテナを運搬したり、多くの人や企業の支えがあって成り立っていることを実感した。また、横浜沿岸は約3年ぶりに訪れたが当時と景観が大きく異なり、開発のスピード感を感じられた。それぞれの建物や地区の雰囲気は「横浜らしさ」と「新しさ」が組み合わさっているように感じられた。"
16. 以前横浜に行った時は3年前だったが、その時から再開発が大分と進んでおり、スピードの速さに驚いた。行政が関わっているところは特に、その事業の承認や予算の確保等、どういった動きや早さで行われているのか気になった。船上視察でいただいたお話の中では港湾事業は目に見えるものはほんの一部であり、その土台作りが大変だということが印象に残った。岸壁も寄せる船の大きさが大きくなると適応させるためにリニューアルを行わなければならないというのは驚いた。
17. 赤井ゼミに入ってから、東京港・大阪港を視察してきましたが、横浜港は規模がかなり大きいと感じました。最新の大型船舶に対応できるよう港を工事しているとのことでしたが、数年後にはさらに大きな船舶ができていく可能性もあるので、国際競争力を維持していくには莫大な予算が必要だと実感しました。また、港湾情報システムを採用することで、ゲート処理や荷役の効率化を進めていることを初めて知りました。東京港では荷役待ちのトラックが大渋滞を引き起こし、それがトラックドライバーの長時間労働の原因の一端であるという記事を読んだことがあります。全国の港湾が横浜港のような最新システムを導入することで、労働環境とドライバー不足の改善を図ってほしいです。

陸上視察の感想1：新港ふ頭客船ターミナル（ハンマーヘッドクレーン）で感じた港賑わいの在り方について。

1. ハンマーヘッドクレーンという日常生活には馴染みのないものが街に溶け込んでいる。それが渋谷のハチ公のようにシンボルとなっているのは横浜ならではのと感じた。建物の中でも手洗い場の蛇口がハンマーヘッドの形になっているなど面白みがあった。
2. 商業施設には、雰囲気の良いレストランやカフェが立ち並んでおり、民間の力を活用することで、観光客や地元の方を中心とした集客が達成できていることを実感した。2階にあった海やハンマーヘッドクレーンを一望できるテラス席も、集客のためのいい仕掛けだと思った。店内で買った商品をそこで食べたり、買い物の途中で休憩する場所には最適だと思う。

3. クレーンは一見観光に向いていないように思えるが、商業施設と組み合わせることによって魅力的なものにできる点が横浜港の特色だと感じた。クレーンが美しい景観の一つになることができるのは、横浜港のように規模が大きく、無機質なものと調和できる建物が多く存在するからなのだなと思えた。



4. 新港ふ頭客船ターミナルにあるホテルは、景観が良い点やそこら辺のホテルでは味わえないような経験ができそうだという点で、ぜひ泊まりたいと思えるほど魅力的でした。視察当日にワクチン接種会場になっていたように、地域の集会所としての役割を果たしているところが良いと思いました。

5. ハンマーヘッドクレーンの中には、飲食店をはじめとした多くの商業施設があり、たくさんの人でにぎわっていた。船を利用するのはもちろんのこと、そうでない人にどれだけ来てもらえるのかということも、港の発展のために必要であると感じた。眺める、楽しむ価値としての港を考察して行きたい。

6. 港を観光地として利用することで、人と人との待ち合わせ場所やモニュメント的な役割を果たしていて、素晴らしいと感じました。観光と同時に歴史を感じることでできる施設は、守っていく価値があるものだと再確認しました。

7. 私たちは、実際にハンマーヘッドクレーンにてスペアリブを購入し、賑わいを肌で感じてきました。せっかくのオーシャンビューがあるので、このように観光施設として活かすことは市民生活向上の面からも、観光客誘致の面からもとても良い発想で、素敵なお施設だったと感じました。

8. 横浜港全体で見れば、みなとみらいや赤レンガ倉庫の存在から港が賑わっていると感じられるものの、客船ターミナルはそうでもないように感じた。もともとの用途が客船ターミナルであることからコロナ禍ではない平時は客船の利用者によって賑わうのだと思うが、現状から見ると非船舶利用客にとってはそれほど魅力的ではないのかもしれないと感じた。

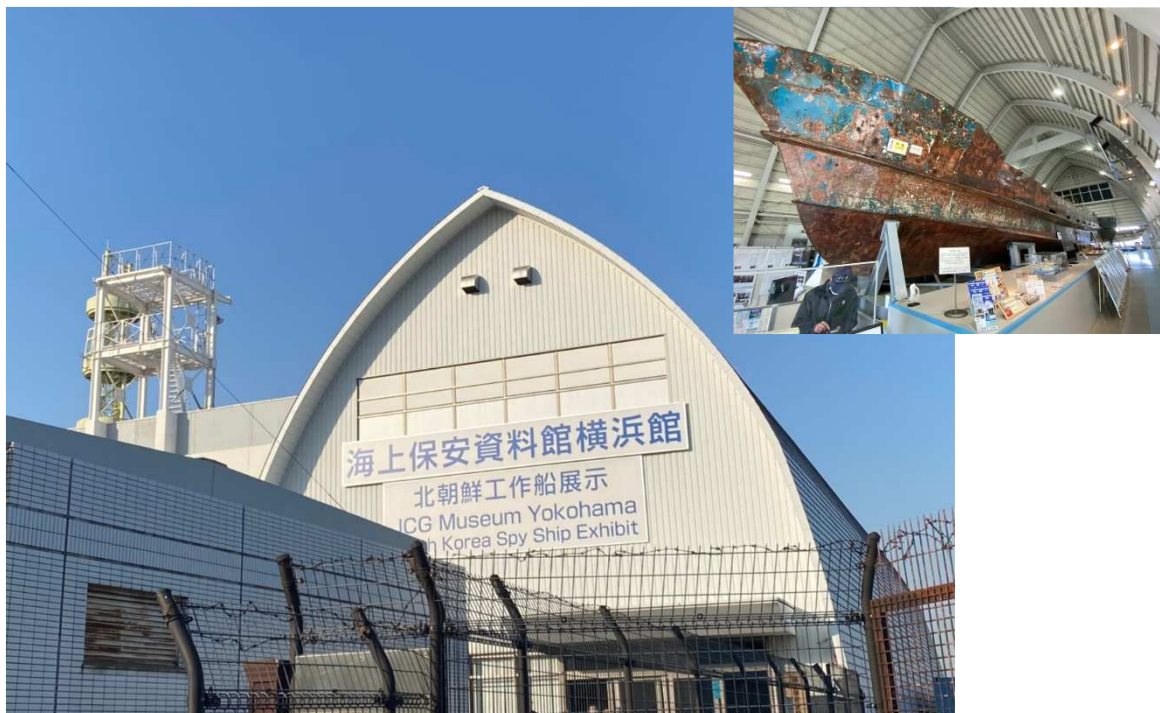
9. おしゃれな施設に、バラエティ豊かな食がありこれからの時代にますます流行りそうであると思いました。1階にラーメン街道があり、そのほかに良さげのスイーツが並び、ターゲットが幅広いように感じました。綺麗な景色を見ながらの食事というのは、多くの需要があると思うので、横浜の賑わいに寄与しているなと思います。

10. 商業施設が充実していたように感じました。実際に自分たちがそこを訪れた際に、「何か横浜っぽいものを食べたい」と考え探索したところ、それに見合うものがあったため、魅力的な施設となっていると考えます。

11. 港のそばのおしゃれな施設というのが第一印象でした。しかし、貨物に関する施設も見ることができるため、横浜港の貨物港としての役割を広めることができるのではないかと感じました。工場等の景色とターミナルがよくマッチしており、とてもよい施設であると感じました。

12. 「食」をテーマとした商業施設と一体で、赤レンガ倉庫などの観光スポットも近いため、寄港した乗客がすぐ横浜観光出来る点が魅力的だと感じました。また、客船利用だけでなく CIQ ホールをイベント会場やワクチン接種に用いるなど、地域の人々に根差した利用が行われている点が良いと思いました。滞在時間に余裕があれば、施設の良さがより体感できたと思います。
 13. 私自身、工場などに興味があるが、ハンマーヘッドほど自然に観光とクレーンが共存しているのは見たことがないので、新しい観光の形を感じました。工場ということもあり、夜景がとてきれいだと思うので、次の機会は夜に伺いたいなと思いました。
 14. 途中参加のため記載なし
 15. 横浜らしいレトロさと清潔感が両立されており、様々な用途で多くの人が訪れたい場所だと感じた。さらに、海に向かってあるテラスの景観も美しかった。「クレーンを見る」目的だと多くの人が訪れない可能性が高いが、観光施設やホテルとしても在るため、集客しつつクレーンを見せる目的も達成している点が良いと感じた。
 16. 行政が民間に土地を貸し出す形で運営されている商業施設であり、港全体に馴染む形で土地が利活用されていてとてもいいと思った。こうした土地の開放を行政の側から積極的に行い、まちづくりに民間の力を借りることで物流・人流の拠点としての港と賑わいある観光名所としての港がスピード感を持って作られ、共存が可能となっているのだと思った。
 17. みなとみらいには何度か行ったことがありますが、ハンマーヘッドという商業施設があることを知らず、横浜にはたくさんの商業施設があるなど驚きました。クレーンを近くでみると、100年以上前のものにも関わらず非常にきれいに保全されており、みなとみらいエリアを美しく保つのだという横浜市の気概を感じました。
-

陸上視察の感想2:横浜海上防災基地(海上保安資料館横浜館)で感じたこと。



1. 過去に外国船と銃撃戦になったという事件があることを知らなかったため勉強になった。何度も警告してやっと被害の出ないところへの銃撃、攻撃をされてからの反撃と、なかなか難しいものであると感じた。
2. 当時の工作船をそのままの形で残し、人々にどういった事件があったのかをビデオや物品を通して詳細に伝えることは、海上保安庁の役割を人々に知ってもらう上で非常に有用だと思った。
3. 北朝鮮の工作船を目の前で見ることができたのは貴重な体験だったと思う。歴史的にも港という場所は大きな役割を果たしてきたので、そういった歴史を身近に感じられる場所としても魅力的だった。
4. 北朝鮮の軍事情報を扱っている資料館はなかなかないと思うので新鮮でした。当時の映像や弾痕がリアルで少し怖かったです。良い歴史の勉強になりました。社会科学習としても使えそうだと考えました。
5. 北朝鮮の工作船を間近で見ることが出来る貴重な施設でした。海上保安庁のやむを得ない防衛射撃に至るまでの経緯など非常に興味深いことが多かったです。これからの防衛や隣国関係について考える良い機会となった。
6. 日本が置かれている安全保障上の脅威を感じると共に、日本が自分から攻撃できないという法律上の制約があることの歯痒さ的な部分と感じました。

7. 実際に見学した北朝鮮の不審船は、思ったより何倍も生々しく、衝撃的でした。実際の弾痕や自動小銃などは、昨今のウクライナ情勢ともリンクしながら、改めて日本の安全保障環境の厳しさを再認識しました。
8. 自分の地元が福岡だということもあり、日本海側に漂着する工作船などの危険性は比較的身近なものなので、現在の国際情勢とも相まり、日頃から国防に力を入れることの重要性を実感した。
9. 自爆したということに衝撃を受けました。捕まることと自殺することを天秤にかけたのか、自爆するようなマニュアルがあるのかとても気になりました。また、リアルな弾痕を間近でみて、海上保安庁職員の大変さや、自分たちは守ってもらっているという実感を改めて感じました。
10. 実物が展示されており、インパクトが非常に強かったです。特に良かった点は、映像付きで丁寧な解説がされていた点です。
11. 北朝鮮の工作船の事件があったことを初めて知りました。風化させないことを目標としていると仰っていたため、そもそもそのような事件があったことをもっと若い世代に伝える必要があると感じました。
12. 射撃を受け沈没した北朝鮮の船を見学し、私が生まれた年に当該事件があったことを初めて知ると共に、海上保安庁の方々が日夜、日本の海の安全を守って下さっていることを改めて実感しました。また、北朝鮮船と応戦した際の映像を視聴し、外国の脅威と最前線で戦う国防の緊迫感を感じました。
13. 海洋国である日本であるからこそ、海上保安が重要であることを改めて感じ、同時に、北朝鮮の不審船が不法侵入し、銃撃戦の末、自爆した事件を風化させてはいけないと強く思いました。
14. 北朝鮮船の事例から、海上保安について考える契機となった。具体的には、単に情報として聞いていたことが実際の船や詳細を現場の方から聞いて国防を担う現場の意識について理解が深まった。
15. 北朝鮮の工作について勉強不足だったため、大変勉強になった。実際の船だけでなく使用された兵器を目の当たりにして、事態の深刻さや海上保安庁の重要性を実感できた。
16. 北朝鮮のものとみられる工作船の事件についてこれまで全く知らなかったのが衝撃的な展示品や映像を見ることができてとても勉強になった。国際情勢が流動的になっている中、多くの人に国防の重要性とその仕事を理解してもらうために最適な施設の1つだと感じた。
17. そもそも、2001年に工作船と戦闘する事件があったことを知りませんでした。国境を守るということは命の危険をともなうことだということを、改めて実感しました。普段横浜に行っても海上保安資料館に行くことはないの、ツアーに入れていただけてありがたかったです。

陸上視察の感想3：観光スポット：赤レンガパーク・赤レンガ倉庫で感じた港賑わいの在り方について。歴史的建築を活用した観光施設として。

1. 赤レンガ倉庫という歴史的にも価値があるものの中に商業施設を入れ、観光資源として活用している例は少ないのではないかと思う。そこには流行をいち早く捉えたものが多く、古い建物の中に新しい時代が渦巻いているような面白さがあった。
2. 視察前は外装しか見たことがなかったが、内装も倉庫として使われていた当時のまま残されている箇所があり、とても良い雰囲気だと思った。店舗も赤レンガ倉庫にマッチするような、オシャレな雰囲気の店舗が多い印象だった。定期的にイベントも開催されているとのことだったので、今後も横浜港のシンボル、地元の方や観光客の集いの場として活用されていくのだろうと思った。
3. 赤レンガという古さを思い起こすような素材で作られた商業施設は、歴史ある横浜港の景観にとって欠かせないものであることを改めて実感した。施設内には、甘いものなどが充実していて、どれかは必ず食べたいなと思った。広場がとても広かったので、甘いものを買って、広場で歴史を感じる風景を見ながらゆっくりするというビジョンが見えた。
4. 今どきのお店が立ち並んでおり、もともと倉庫だったとは思えないほど館内が改装されている印象を受けました。沢山の飲食店やお土産屋さんがあり、横浜港の施設の中でも特に観光業の収入源になりそうだと思います。
5. 歴史を感じさせる建物の中には、数多くの現代的なお店が入っており、多くの人で賑わっていた。歴史的遺構であったとしても、ただ眺めるだけでなく、そこを様々な形で体験できるということはこれからのツーリズムの中で非常に大切になってくると思う。実際に、旅行自体が何かを体験することが中心になりつつもある。
6. 歴史的な建造物の外観を残しつつ、中には沢山のショップが並んでおり、近代と現代の美が融合していて、素敵でした。横浜ならではの商品も沢山あって、見ていて楽しくかったです。
7. 私は赤レンガ倉庫でも、売られていたクレープを食して賑わいを体で感じてきました。施設内は人で混み合うほどで、改めて横浜港・みなとみらい地区の観光業の盛況ぶりを確認できました。観光資源としてのパワーはかなり高いと思うので、それをうまく活かして需要を生み出せているのはとても素晴らしいと感じました。
8. これまで赤レンガ倉庫をテレビやネットの情報でしか見たことがなく、正直な感想としては想像していたより規模が小さいと思った。しかし、有名な観光地となっているので規模が小さくても十分魅力的なのだろうとも思った。個人的には、店舗や通路の床下に紹介されていた、赤レンガ倉庫の歴史を語る物に興味があったので、もっと目立たせてほしい。
9. 非常に素敵であるなと思いました。赤レンガについては、少し中が狭いように感じましたが、それはそれで人が窮屈にひしめきあう賑やかさというものが演出できるのかと思いました。赤レンガパークを含めた屋外の広場については、このような散歩ができる景色のよい場が住民

の幸福度につながりそうであると思うので、観光にとどまらず、近隣の人々の健康増進や憩いの場としても大きな力をもっていると感じました。

10. 横浜のランドマークとして大きな役割を担っており、実際に施設の満足度も高かったです。なぜかという、施設内の店舗のジャンルが非常に多岐にわたっており、見ていて飽きず、かつ、歴史を感じれたからです。
11. 非常に趣のある施設であると感じました。この施設が 30 年ほど前までは実際に使われていたという事実に非常に驚きました。倉庫だった広さを利用して様々なイベントが実施されているとのことで、今後より一層活用を進めることができる施設であると感じました。関西にいても名前を知っている施設なので、他の場所と合わせた観光プランも考えられそうだとおもいます。
12. 平成元年まで赤レンガ倉庫が物流拠点として使われていたことを初めて知りました。倉庫のレトロな外観と海の見晴らしがマッチしていて、中華街やみなとみらい、ランドマークタワーと並ぶ横浜を代表する観光スポットの一つだと感じました。
13. 昔から有名な観光スポットだと思っていたので、有名になったのは最近ということを知り、驚きました。こちらも夜にライトアップされるということなので、夜に訪れて夜景を見たかったという思いがあります。
14. 国内においても、公共施設の有効活用が成功しているという点で稀有な事例だと感じた。特に元来は国有だったものを買収したというお話を聞いて、市政が積極的に市の資産の活用しようとしてきたという事を実感した。
15. 赤レンガ倉庫の歴史の長さや、民間・公共が協力して赤レンガ風の景観維持に務めている点を新たに学ぶことができた。他の都市ではなかなか感じられない異国の雰囲気と海的美しさが両立された地区であり、観光施設として大変貴重であると思う。
16. 赤レンガ倉庫は横浜のシンボリック存在であり、一度廃庫になった歴史があることに驚いた。横浜は他の大都市に比べてあらゆる資源の活用が巧みであり、赤レンガ倉庫はその象徴だと思った。建物内部の活用はもちろん、外観を背景に SNS 投稿を行なっている若者が多くみられたことや、広場でのイベントが頻繁に行われていることから、時代が今後進んでもあらゆるニーズに対応していける施設だと思った。
17. 赤レンガ倉庫は、観光スポットとしても横浜を代表する景観としても、重要なスポットだと思います。最後に大さん橋からみなとみらいの風景をみたときに、赤レンガが非常に目立っていて象徴的でした。日本ではそれほど多くないレンガ造りの建物を保全し、さらに商業施設として活用しているのは、大阪の中央公会堂と比較して集客力がかなり大きいと感じました。

陸上視察の感想4: 大さん橋国際客船ターミナルで感じたこと、その意義。

1. 屋上広場はとても大きい生き物の上にいるような感覚で個人的にとっても印象に残った。またそこで見える景色は横浜の主要な建物を一望できる素晴らしいところだった。外国から入国できる場所をもっと厳格なところだと思っていたため、あの場所での入国できるのは驚きだった。



2. 一般に、客船ターミナルというと、大きな駐車場と大きな岸壁といったイメージだったが、大さん橋国際客船ターミナルは、景観と調和した優しいデザインのように感じた。バリアフリーなどにも配慮されており、これまでの客船ターミナルの概念を覆すもののように感じた。地元の高校生らしき学生たちやカップルもたくさん見られ、客船ターミナルとしてだけでなく、横浜港の新たなスポットとしても活用されていくだろうと思われた。



3. 屋上広場からは、大きな横浜港をほぼ端から端まで見渡すことができているところだった。地面が木で作られているところが印象的で、これが石などであったら、少し殺風景になってしまうからなのかなと感じた。屋上から建物の中まで、いろいろなスペースが確保されていて、用途が無量大だと思った。

4. 施設の至る所からバリアフリーの配慮が見受けられ素晴らしかったです。また洗練された雰囲気空港に来ているようでした。海へ突き出すような形で展望デッキが設計されていて、横浜港の景観がきれいに見えました。

5. 機能的なだけでなく、造形も非常に美しい建物であった。コロナ禍のため、外国からの旅客が来ず、税関や検疫を行うスペースが使われていなかったのは残念であるが、来る日のために備え、更なる発展を願う気持ちになった。また、同時に乗船下船以外の方法で何か使える方法が無いかと模索することもこのご時世、重要であると思った。

6. 曲線だけのターミナルで非常にオシャレでびっくりしました。通常のターミナルとしての機能だけでなく、居心地の良い空間としての機能を提供できている点、素晴らしいと思いました。僕も今度利用してみたいと思います。

7. 大棧橋は何度も行ったことがあるのですが、いずれも夜だったので昼の顔を初めて見ることでできてよかったです。これまで行ったときはいずれも飛鳥Ⅱが寄港していたので、今回いなかったのは残念でしたが、飛鳥Ⅱが寄港していなくても大棧橋が十分大きく美しいことが分かって、それはそれで良かったです。
8. 担当者の方のお話はもちろん、見た目からもデザインに力を入れていることがとてもよく伝わってきた。潮風にさらされ建設から 20 年が経ち、決して新しいとは言えなくなっても、素敵な建物であり続けているのがすばらしいと思った。
9. 非常にきれいで、横浜の街並みや港とマッチしているなと思いました。CIQ を通って、柱のない、バリアフリーな空間を通過し、駅前のようなロータリーでバスに乗るという無駄のない流動的な仕組みが素晴らしい設計であると感じました。比較的富裕層が多い国際客船からの玄関口として、機能的で美しいことを感じられるため、クールジャパン的なアピールができるという意義も感じました。
10. 今回の視察を通して、最も興味深いものでした。ただの橋とするのではなく、傾斜等をつけることでアート性を感じさせられました。私の様に建築物が好きな人には非常に良いスポットだと思います。
11. ターミナルのデザインは、一見船の乗り場とは思えないようなおしゃれなデザインでした。海外からの大きな客船を受け入れられるような規模とデザイン性を両立しており、日本を代表する港湾施設であると感じました。ここからクルーズに出発してみたいと思えるような施設でした。
12. 屋上広場から横浜みなとみらいの風景を一望でき、船に乗船する人だけでなく、誰でも気軽に訪れることの出来る観光スポットだと感じました。商業施設と併設したハンマーヘッドクレーンと比べて大さん橋国際客船ターミナルはロビーや CIQ スペースが広く、出入国をメインにした施設だと感じました。
13. 曲線を意識して作られた建造物だったので、外見は国際客船ターミナルというよりも、美術館や博物館のような印象を受けました。豪華客船と横浜の街の景観はマッチすると思うので、豪華客船が停泊する大さん橋国際客船ターミナルも見たいと思いました。
14. 行政のターミナルに対する強い期待を感じた。コロナ禍でクルーズ船の市場規模が世界的に減少し、それに伴いターミナル自体も厳しい状態にあるのではないかと考えていた。しかし、直接現場の賑わいを見て、単なる船の発着場としてだけでなく、それ単体でも人気の観光施設として地域に貢献しているのだと分かった。
15. 景観も美しく、太陽なども美しい地点のため、多くの人が様々な用途で訪れたい場所だと感じる。コンビニエンスストアのような売店やレストラン等を併設することでより多くの集客を見込めるのではないかと感じた。
16. 個性的なデザインで客船ターミナルとしての役割と同時に横浜港のシンボリック役割と港全体を眺める人々の憩いの場としての役割など、1つの建造物がたくさんの役割を担っているのだと実感した。ただ、一般の人々に対しては観光地としての認識が強く、客船ターミナルとし

ての機能を知らない人も多いのではと思うので、クルーズの広報含めターミナル機能の PR を強化していく必要もあると思った。

17. 外観も内装も曲線が多く、特徴的だと感じました。海外からクルーズで横浜に来た人に、横浜の先進的な印象を与えられるのではないかと思います。また、屋上を広いウッドデッキにすることで、ただの客船ターミナルではなく市民の憩いの場にもなっており、客船で来る観光客のみならず市民にとっても素敵な場所だと思います。

随行教員からのまとめ

このたびは、国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所のご協力により、横浜港エリアの港湾機能施設、および港湾振興施設を見せていただく機会を得た。学生にとっては、物流政策・観光政策を目で見るとともに、その意味や狙いを学ぶ、貴重な機会となった。学生の感想からも、多くの学びや刺激があったことがわかる。観光施設は、自分で訪問することも可能だが、物流施設は、日ごろの生活に不可欠な日本の玄関口であるにもかかわらず、日ごろは気に掛けることも少ない、その意義や効果について知る機会は少ない。この機会は、将来、日本の貿易を通じた生活向上・経済成長を考えるうえで、役立つであろう。ゼミでは、このような機会を通じて、将来の日本を支える人材育成を行っている。今後も、このような機会を意味のあるものにするべく、価値のあるゼミ活動を行っていければと思う。このたびは、ありがとうございました。